

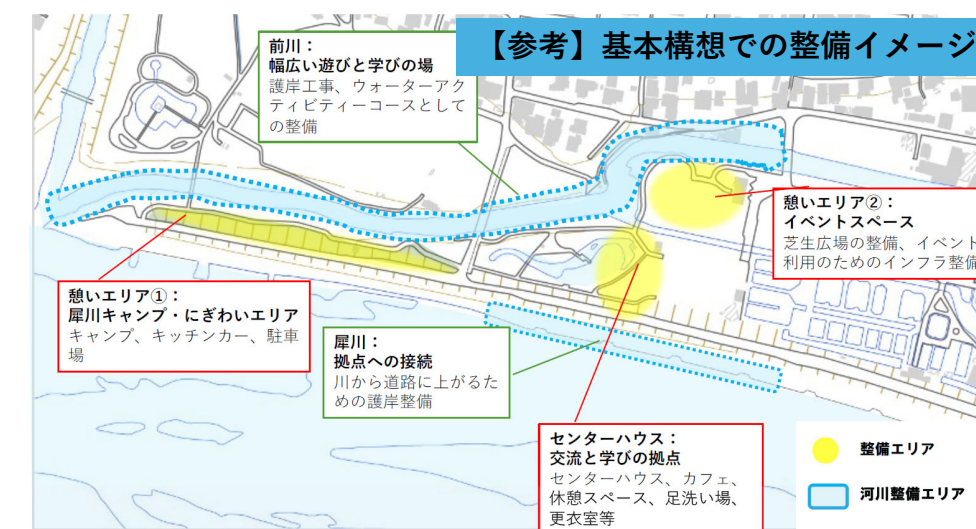
1. 基本構想具体化における検討課題

基本構想及びこれまでの協議会で出された提案等の内容をもとに、今後の施設整備等の計画の具体化にあたっての検討課題として次の①～⑥があげられてきた。

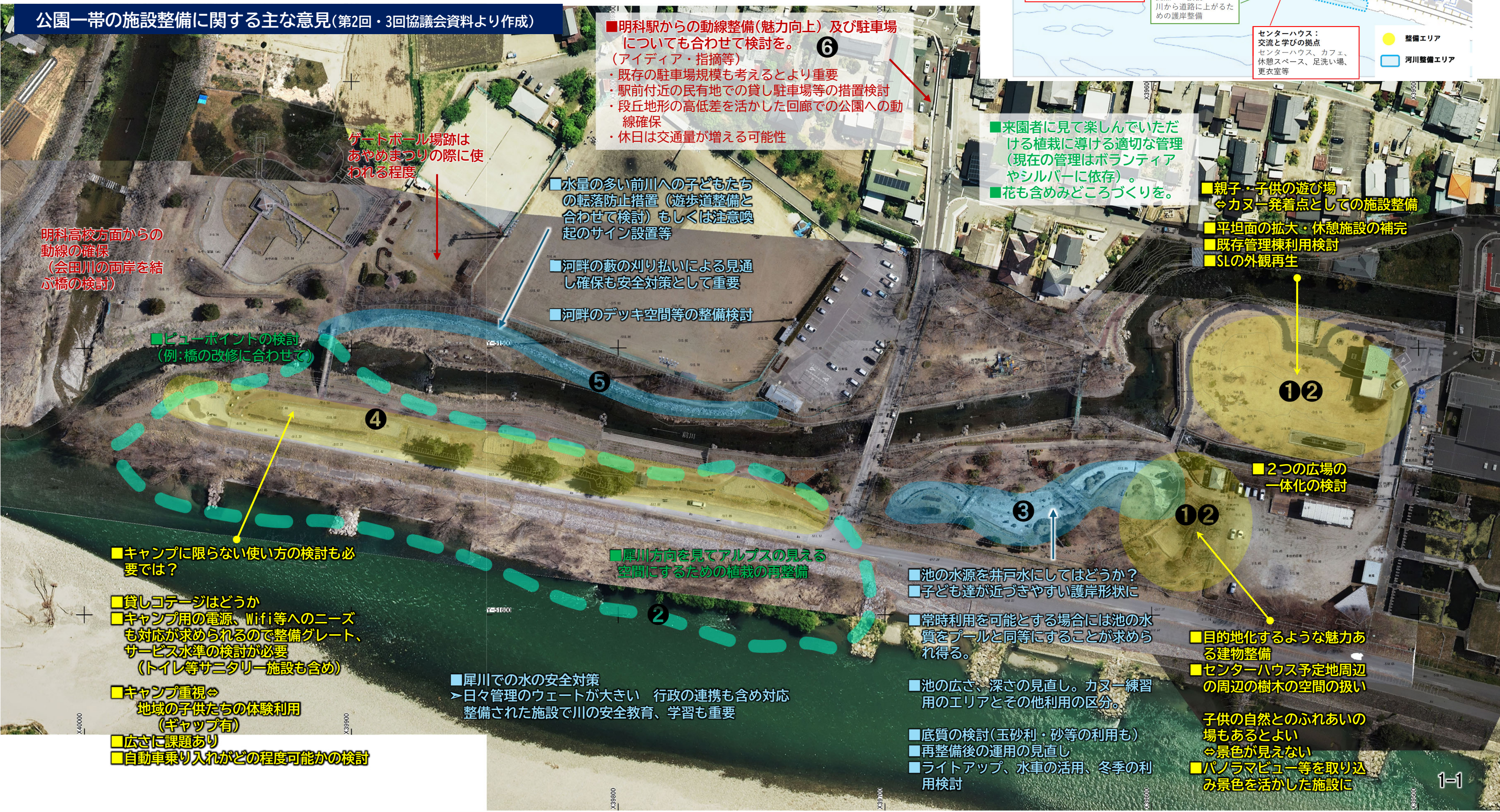
- ① 新設予定のセンターハウスに必要な機能・規模の設定（各種制約・運営条件等も考慮しての適正配置の検討）
- ② 広場の確保や景観形成、一体的な動線確保に留意した施設規模及び配置（建築・広場・園路等）と植栽再整備の検討
- ③ 池の改修の具体像 ④ キャンプ利用導入の要否 ⑤ 水際の安全対策
- ⑥ 明科駅からの動線・活性化策も含めた整備検討

文字色凡例

- 黄色：新規導入機能で建築物整備を併い得るもの
- 水色：既存の水辺の利用・改修整備に関するもの
- 緑色：植栽整備に関係が深い事項
- 赤茶色：その他関連するご指摘



公園一帯の施設整備に関する主な意見(第2回・3回協議会資料より作成)



2. センターハウスの規模検討と具体化にあたっての課題 (【課題①補足】 前回協議会提示資料を再掲)

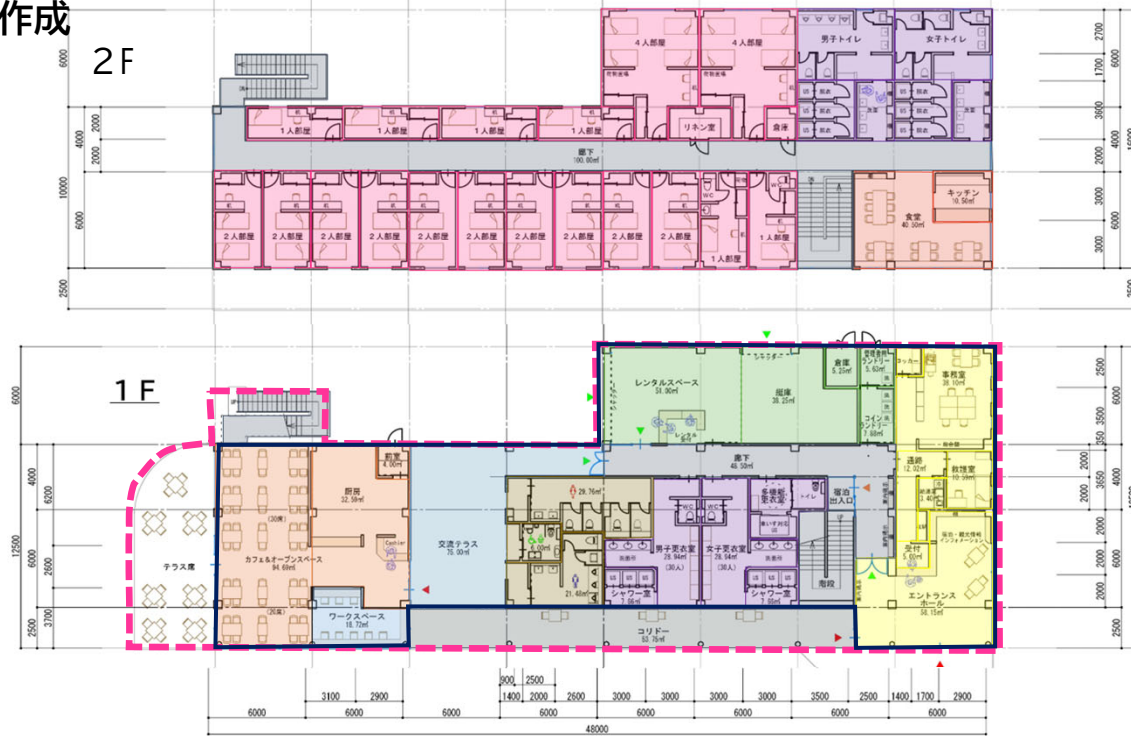
① 第4回協議会での提示資料 (R05年度構想) をもとに規模を検討

候補地	機能	最低必要面積	図中色	検討面積
1F	受付・事務室、救護室、レンタルスペース	60㎡	■	169㎡
	更衣室、シャワー	60㎡	■	89㎡
	トイレ	20㎡	■	58㎡
	コインランドリー	10㎡	■	14㎡
	カフェ&オープンスペース	50㎡	■	132㎡
	ワークスペース	50㎡	■	94㎡
	階段・廊下			73㎡
2F	宿泊 (20室程度) ※うち1室は管理人室	200㎡	■	356㎡
	食堂、キッチン	60㎡	■	51㎡
	宿泊者用トイレ・シャワー	-㎡	■	96㎡
共通	階段・廊下		■	121㎡
	駐車場	200㎡	■	-㎡
	コリドー・外部通路		■	58㎡
	倉庫 (艇庫)	40㎡	■	38㎡
	合計	750㎡		1349㎡

デザイン的な特色付けを検討する前に必要な諸室の面積を見出す作業を実施。

関係者の意向ききとりや参考事例等をもとに収容人数、サイズ等を具体的に定め図化。

② 平面プラン例作成



1F 諸室及び室内廊下の合計 680㎡

③ 課題と対応

【課題】

○規模・整備コスト

40人規模の宿泊施設を条件とした場合、施設の規模が相応に大きくなり整備コストも大きくなる。

○施設運営

公園から主要な車両動線が離れていて、前面交通量がなく立寄り型利用が限定される立地条件のため、現状ではイベント時以外の利用は少ない。宿泊や飲食提供の運営の確実性が見えない。

○整備位置

地盤条件が決して良好な条件でなく、下水道の既設ルートも限られる中、整備可能な範囲が限られる。構想に示された場所または芝生広場が候補となるが、芝生広場は維持の声があり、構想の場所には下水がなく、排水路の対岸まで接続する必要が生じる等、いずれも課題が残る。

→これまでおきしてきた要望やイメージを集約していただくだけでは、将来的な施設運営の持続の確実性が十分に見出せない状況

【参考図】



【左記の機能・規模のセンターハウス整備費概々算】

- 明科南こども園整備単価 約60万円/㎡(2018年当時)を現在の価格に補正→72~74万円/㎡
- この額を整備面積に乗じると、建物だけでおよそ10億円相当を要すると推測される。

【参考】市内の類似施設の規模

	部屋数	収容人数	延床面積㎡
啼鳥山荘	11	120	1037.42
長峰荘	14	50	1452.23
天平の森	6棟	30	(コテージのみ)

【対応】

○宿泊・飲食提供の方向性がセンターハウスの規模や事業全体の枠組みを左右することから、これらの機能を常設する空間の規模を見定めるため、当該施設の運営に関心をもつ民間事業者から提案や意見をうかがい、その市場性について把握を行うサウンディング調査を実施する。

○センターハウスには、①水辺利用のサポート、②施設全体の運営、③飲食・宿泊等による賑わい創出が機能として求められているが、①・②としてまず必要な機能と規模を見定めつつ、上記の調査結果を踏まえ、③の機能の確保の方法・規模を見出す。

○合わせて、周辺を含む賑わいの創出の方法について、時間軸での展開を見出すことも必要。

3. 公民連携による事業推進の可能性の検討

(1) 龍門淵公園での収益施設の整備・運営に関する事業者意向の把握と市場性に関する見解

	サウンディング調査等でのききとり結果			
	事業者A(テナト・開発)	事業者B(観光・旅行)	事業者C(食分野)	事業者D(建設)
事業参入の意向	○行政の費用負担による建設・設計分野で参入意向	○行政の費用負担による整備・運営で参入意向・DB+指定管理(全体)	○行政の費用負担による整備・運営で参入意向・食提供や物販等の一部担い手として連携	○行政の費用負担による整備・運営で参入意向・建設事業、指定管理者としての参加
事業方針	○建設・設計分野のノウハウ・技術提供・運営での参入意向なし	○拠点施設整備による地域交流、リバースポーツの活性化 ○ソト事業展開(ツアーコンテンツ、イベント等)による地域の賑わい促進	○地産食材の魅力発信 ○生産者・消費者間の関係構築 ○小規模農家の受け入れ支援	○明科地域全体でのサービス提供(段階的拡大) ・明科地域にヒト・コト・モノを循環させていくために、現時点で不足している機能に対する公園・建物整備の実施。段階的な事業拡大。
分野別意見・提案	① 体験・交流	○リバースポーツ及び明科周辺での滞在の拠点となる施設整備(宿泊機能のあるセンターハウス) ○自然体験型のコンテンツや各種イベント開催の企画(センターハウス+芝生広場)	○龍門淵公園を拠点とした、明科のアウトドア体験 ・河川を中心としたウォーターアクティビティ体験 ・河川沿いを活用したサイクリング及びまちなかの周遊 ・その他まちの資源を生かした地域連携型体験ツアー	○龍門淵公園を拠点とした、明科のアウトドア体験 ・河川を中心としたウォーターアクティビティ体験 ・河川沿いを活用したサイクリング及びまちなかの周遊 ・その他まちの資源を生かした地域連携型体験ツアー
	② 飲食	○誰でも利用できる飲食機能の導入(センターハウス)	○食を通じた交流促進 ・加工、試食、食提供、販売の一括導入 ・新鮮な地産食材の活躍 ※小規模なもの	○センターハウス内に設置 ・多目的活用可能なカフェスペース ・食を軸にしたイベント、レンタルスペース機能
	③ 宿泊	○60人規模の宿泊機能を導入(センターハウス) ・小規模団体受入れ+個人+イベント等の組合せ ・屋外型も検討の余地 ・誘客には相応の準備が必要	○滞りの拠点となる最小限の宿泊機能を導入 ・明科地域内との分担や将来的な拡大を考慮した必要最小限のスタート(15人程度:トレーラーハウス等) ・キャンプ等の屋外型も検討の余地(あやめ公園遊歩道沿いの一部活用)	○滞りの拠点となる最小限の宿泊機能を導入 ・明科地域内との分担や将来的な拡大を考慮した必要最小限のスタート(15人程度:トレーラーハウス等) ・キャンプ等の屋外型も検討の余地(あやめ公園遊歩道沿いの一部活用)
収益性の考え	○収益確保のハードルあり ・最寄り駅や幹線道路からの視認性が低い ・公園駐車台数に限りがある	○宿泊運営による収益確保 ・リバースポーツと関連した宿泊受入れで収益確保 ・安定経営には多方面からの営業PR、努力が必要	○持続可能性とブランディングが肝 ・江ノ川存在や厨房機器の特性に左右されない持続性が重要 ・『安曇野』のブランドイメージを活用した十分なマーケティング	○収益事業を段階的に拡充 ・自主事業、設置許可制度等も活用し、採算性を確認しながら収益事業を拡充(バーベキュー、焚火等)

事業者E: 園内施設に対する直接的な事業参加等の意向はなかったものの、宿泊施設に関しては、明科駅前の一帯への設置が望ましく、公園内への設置は誘客面でも厳しい条件との指摘あり。一帯のまちづくりと役割分担を行い、公園内、公園外それぞれの主体が採算性を確保しながら、連携していくことが重要との提案あり。

☒は該当分野の提案がなかったことを示す

(2) 拠点施設整備運営における公民連携手法の候補整理

5事業者の意向や提案をもとに、施設整備・運営における公民連携の方向性を整理。

公民連携の方向性

- 公民連携に関心をもち、参入意欲のある事業者の存在を複数確認。
- 施設は行政での整備が基本計画・工事段階から関与し、運営にも参加を希望する事業者あり
- 施設整備に自ら投資することを提案する事業者はなし。
- 収益面では厳しい条件であり、運営面での民間のノウハウは必要不可欠。

体験・交流

○水辺体験・交流・学習等のための運営をより特色ある内容とすることが交流人口創出の面から重要。

飲食

○民間のノウハウを取り入れながら行政で園内に施設整備、民間が運営する必要性(B, C, D)

宿泊

利用者への提供サービスの充実のためにも一定規模の収益確保は重要で、その可能性を期待できるのは宿泊機能という指摘あり。そのための手法として次の2案。

○民間が将来的に自走できる規模で当初から整備(B)

○予算から出る初期投資を一定期間(数年程度)で回収できるようスモールスタート(D)

このほか、園外への宿泊機能の整備の提案あり(E)。

公民連携手法の候補

- 施設は公費での整備を基本。民間が整備段階から関与し、指定管理者としても運営に参画。
- 宿泊と飲食に関しては、事業者提案等を勘案し、3つの手法を抽出。

宿泊機能を民間で将来的に自走できる規模で確保し運営

手法I	行政	民間
① 体験	整備	運営
② 飲食	整備	運営
③ 宿泊	整備 将来の民間自走が可能な規模	運営

事業者B・Cの提案の混合

段階的に拡充が可能な宿泊機能を確保しながら運営

手法II	行政	民間
① 体験	整備	運営
② 飲食	整備	運営
③ 宿泊	整備 (トレーラーハウス・キャンプ等)	運営

事業者C・Dの提案の混合

行政は体験・交流機能のみに力点、飲食・宿泊は公園外で民間主体で展開

手法III	行政	民間
① 体験	整備	運営
② 飲食		
③ 宿泊		

事業者E提案に近似

園内に専用機能を有する施設は設けず仮設・イベント利用で展開

(3) 公民連携手法候補の相互比較

連携手法の特徴	宿泊機能を民間で将来的に自走できる規模で確保し運営	段階的に拡充できる宿泊機能を確保しながら運営	行政は体験・交流機能のみに力点、飲食・宿泊は公園外で民間主体で展開																																				
公民連携体制	<table border="1"> <thead> <tr> <th>手法Ⅰ</th> <th>行政</th> <th>民間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①体験</td> <td>整備</td> <td>運営</td> </tr> <tr> <td>②飲食</td> <td>整備</td> <td>運営</td> </tr> <tr> <td>③宿泊</td> <td>整備 将来の民間自走が可能な規模</td> <td>運営</td> </tr> </tbody> </table>	手法Ⅰ	行政	民間	①体験	整備	運営	②飲食	整備	運営	③宿泊	整備 将来の民間自走が可能な規模	運営	<table border="1"> <thead> <tr> <th>手法Ⅱ</th> <th>行政</th> <th>民間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①体験</td> <td>整備</td> <td>運営</td> </tr> <tr> <td>②飲食</td> <td>整備</td> <td>運営</td> </tr> <tr> <td>③宿泊</td> <td>整備 (トレーラーハウス・キャンプ等)</td> <td>運営</td> </tr> </tbody> </table>	手法Ⅱ	行政	民間	①体験	整備	運営	②飲食	整備	運営	③宿泊	整備 (トレーラーハウス・キャンプ等)	運営	<table border="1"> <thead> <tr> <th>手法Ⅲ</th> <th>行政</th> <th>民間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①体験</td> <td>整備</td> <td>運営</td> </tr> <tr> <td>②飲食</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③宿泊</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	手法Ⅲ	行政	民間	①体験	整備	運営	②飲食			③宿泊		
手法Ⅰ	行政	民間																																					
①体験	整備	運営																																					
②飲食	整備	運営																																					
③宿泊	整備 将来の民間自走が可能な規模	運営																																					
手法Ⅱ	行政	民間																																					
①体験	整備	運営																																					
②飲食	整備	運営																																					
③宿泊	整備 (トレーラーハウス・キャンプ等)	運営																																					
手法Ⅲ	行政	民間																																					
①体験	整備	運営																																					
②飲食																																							
③宿泊																																							
行政で整備するセンターハウス規模	必要諸室面積合計で1350㎡程度※1 交流・運営機能、飲食提供のほか40～60人収容可能な宿泊機能 50人規模の受け入れ可能な飲食提供スペース	必要諸室面積合計で680㎡程度※2 交流・運営機能、飲食提供のほか15人程度(トレーラーハウス・キャンプ等)収容可能な宿泊スペース	530㎡程度※3 交流・運営機能のみ 飲食や宿泊の機能は民間により敷地外 体験交流の運営拠点機能のみ確保																																				

※1 P2の建築イメージに近い内容。60人収容の場合は相部屋をさらに増やすか、宿泊施設を増やす必要あり

※2 P2の建築イメージのうち、1Fの面積680㎡とした場合

※3 P2の建築イメージのうち、1Fの面積から食提供機能・ワークスペースを除いた値約530㎡を参考に設定

目的達成度	関係人口の早期創出	◎ 初期から関係人口を誘致しやすい。宿泊を伴う体験(数十人単位)を積極的に誘致でき、利用促進の基盤が整う。	○ スタート段階はより小規模(15人程度)のため、宿泊&食の特色付けを進め、段階的に効果を発現。	▲ 未知数 宿泊の誘致の基盤を公園外(市街)に求めるため不明瞭
	基本構想の目標像(巡る)への対応	○ 「巡る」を実現させる大きな起爆剤になり得る。一方で、拠点施設のみに利用集中の可能性も否定できない。	○ 公園内から仕掛けつつ、まちなかの状況もみながら「巡る」を構築しやすい手法。宿泊の魅力向上策が必要。	▲ まちなかでの取り組みへの比重が大きくなり、実現に時間がかかる可能性。現在の事業のフレーム見直しも必要。
ニーズの充足	宿泊・飲食利用の収容充足の確実性(P5補足1)	△ 数10人×320日の宿泊・飲食収容施設を通年で相応の稼働率を維持するための労力・しかけづくりが必要。	○ 宿泊をより確実な方向で運営できる。	△ 期待は小さいが、実態を踏まえて着実性を徐々に高めていくこととなる。
	公園利用者・市民ニーズへの対応(P5-6補足2)	△ やや過大 公園利用者の「宿泊施設」へのニーズは低い。	○ おおむね適切 最も期待の多い飲食や交流を求めるニーズに的確に対応。	▲ 不足 食を活かした交流ができない点でニーズへの対応は不足。
公的施設としての整備運営・予算の配分	施設集約と効率的な運営	◎ 園内で1か所に集約整備。効率的運営の実現が容易でサービスの質向上の期待あり。	○ 園内の資源活用と動線を考慮した施設配置。段階整備の場合は、施設が園内で分散する可能性もあり。	△ 必要機能が公園と市街で分散。関係者相互の目的意識の統一や連携体制構築が不可欠。
	園内環境への影響の懸念	△ 建物規模が大きくなるため適切な候補地は芝生広場の可能性大。広場面積減少の程度が大きくなる	△ 広場面積減少の程度は中程度。宿泊規模が大きくなると、広場面積の減少の可能性あり。	◎ 小さい
	限られた公費の効果的な配分	▲ 建築物に集中し、偏り大	△ 建築物にやや偏り傾向	△ 別分野への大胆な配分が必要となる可能性
	民間運営の撤退時の問題の程度	▲ 大きい(飲食・宿泊部門の撤退時の対応)	△ 中程度	◎ ほとんどない
検討課題	<ul style="list-style-type: none"> 当初からの誘客の裏付けの確実性向上 施設のコンパクト化 周辺住宅居住者の一層の理解 	<ul style="list-style-type: none"> 施設のコンパクト化 敷地が限られる中で、段階整備の手法の具体化 周辺住宅居住者の一層の理解 	<ul style="list-style-type: none"> 公園外での展開の可能性の具体化(試行→発展のプログラム、行動計画の立案等) 	

◎：課題はほとんどない ○：一部課題があるが影響の程度は小さい △：他の手法に比べ課題あり ▲：選択を左右し得る大きな課題

以上から、行政で整備する施設に設ける宿泊機能を、民間により将来の自走が可能な規模を見込むか、段階的に拡充できる形とするか?がポイント。本事業の目的に照合させて、ターゲットの設定、確保すべき機能とその規模に関して市の方向性を定め、その方向性に適した公民連携の手法を定める必要あり。

補足1 宿泊施設の運営に関する検証

◆1 水辺スポーツ参加者の母数からの検証

カヌー・カヤック・ラフティングの参加率、参加希望率は一定数あるが必ずしも高いわけではなく、さらに、アウトドアエリアとして甲信エリアが選ばれる必要がある。この条件に相当する母数について既存のアンケート調査から試算すると、**数千人規模が見込まれる(下記)**が、甲信エリア内から本公園が選ばれる必要もあるため、さらに母数は小さくなる。

- ・全国の20代～60代の直近1年のカヌー・カヤック・ラフティングの参加率×甲信地方をアウトドアスポーツフィールドとして選ぶ率 → 7556万人×0.75%×8.6% → 約4,876人
- ・全国の20代～60代の今後してみたいアウトドアスポーツのうちカヌー・カヤック・ラフティングへの参加希望率×直近1年でアウトドアスポーツに参加した人のうちカヌー・カヤック・ラフティングへの参加者の占める割合×甲信地方をアウトドアスポーツフィールドとして選ぶ率 → 7556万人×4.1%×2.8%×8.6% → 約7,460人
(アウトドアに関する調査(2024年)クロスマーケティング社調査をもとに推計)

なお、上記の数値は天平の森の1年間の利用者数より少ない。

以上から、カヌー・カヤック・ラフティング等の体験のための宿泊者だけでなく、冬季のインバウンド利用やイベント時の宿泊、地元団体や教育機関の利用等、年間を通じて多様な利用客を見込んだ宿泊施設が必要になり、そのニーズに対応しようとする施設規模が大きくなっていく傾向が把握された。

◆2 企業研修等の場としてのニーズ

上記のような課題を補う可能性のあるニーズとして、20-30人規模の**スタートアップ企業の研修やリトリート体験等のニーズ**があることは、サウンディング調査でも把握された。企業向け研修サービスの市場も拡大傾向にあり(矢野経済研究所、2025 企業向け研修サービス市場の実態と展望 2025年7月より)、関係人口創出の期待がある。

◆3 安定した収入確保に向けた課題

仮に数十人規模の収容の施設を運営するために、誘客の企画体制を含めた数人を雇うことができると考えられる収入(一例として3000万円)を確保するには、以下の課題があることがサウンディング調査で把握された。

- ・単独の旅行業者のみで誘客を図れる規模ではなく、多様なルートからの誘客が必要
- ・小ロット(20~数十人)の団体利用を**誘致するためには1~2年の準備、教育旅行では2~3年前からの準備が必要**
- ・**イベント、大会などによるまとまった規模の宿泊**が必要
- ・大都市からの教育旅行はロットが大きく、分散宿泊が必要
- ・龍門淵公園は主要道路からの**視認性も低く、駐車場の収容規模にも限り**があり、宿泊施設や立ち寄り施設の立地には厳しい条件である 等

◆4 近隣の類似施設の運営

近隣の天平の森でのR4~R6の年間総利用者数は約11,400~12,400人(庁内資料)。この3か年では、平均で利用料約1,100万円と指定管理料約1,500万円の計2,600万円の収入で採算を確保しながら運営している。

◆5 週末やハイシーズンの宿泊施設不足への対応

- ・週末やハイシーズンは、市内で宿泊できずに近隣の市町村へ宿泊が流れ、宿泊施設の不足が滞在型観光の促進において課題。
- ・近年は山麓を中心に新規の宿泊営業の届け出が増加。市内には宿泊施設が現在259施設(保健所届出数)、この内、令和元年以降の届出数が104施設(簡易宿所79、旅館・ホテル25)、近年の宿泊ニーズの高さを反映した傾向。

以上から、一定程度のニーズはあるものの、大きな規模で収容する施設を当初から整備した場合に、安定的な運営を展開するには不確実な要素が多い傾向が見える。地域や民間のノウハウを活かしながらの準備や運営が必要。

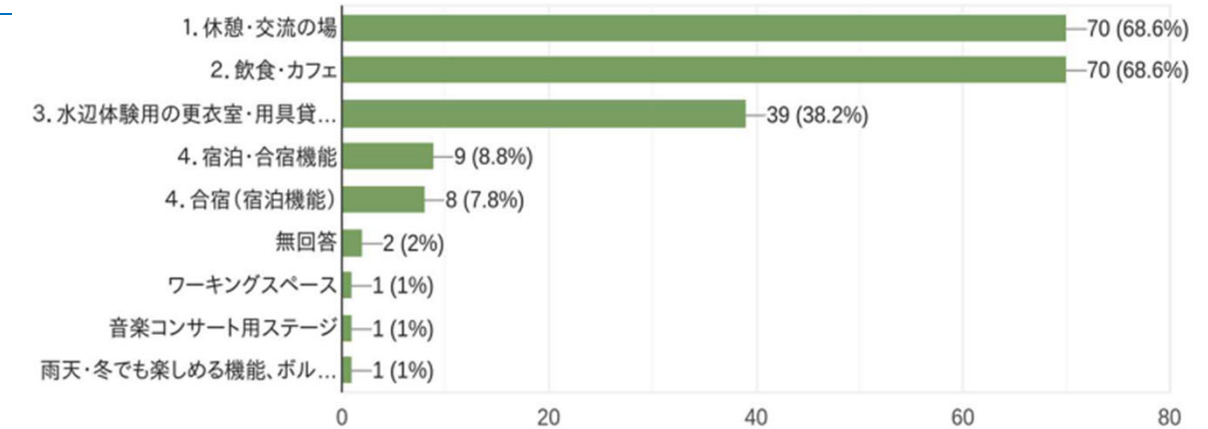
補足2 市民意識に関する資料整理

2-1 公園利用者へのアンケートの調査(7月協議会 提示資料)

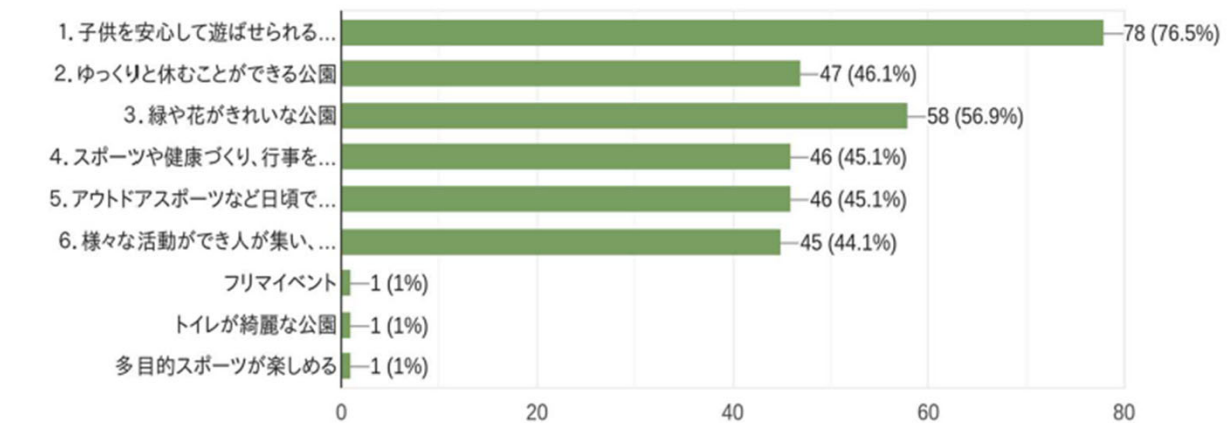
龍門淵公園でのイベント来訪者を対象に行ったアンケート調査(回答総数99件)から、アウトドア拠点施設整備に関する回答を抜粋して整理

今後整備される予定の**センターハウスに求める機能は、休憩・交流の場、カフェ・飲食が上位2つを占め、いずれも7割近い回答。**

9) センターハウスで検討中の機能のうち、どれに期待されますか。(複数回答可)



10) 整備によってどんな公園になるとよいとお考えですか。(複数回答可)



整備によってできる公園像としては、**安心できる子供の遊び場、花や緑のきれいな公園**が上位2つを占めている。

11) 設備や環境に対するご要望・ご意見がありましたらご記入ください。(任意)

水道を増やして欲しいと思いました。
シャワー施設があると嬉しい
せつかく水辺を整備していただいたので、松川村のりんりんパークのように綺麗な水を常に流して小さな子どもが水辺で遊べるようにしてほしい。
トイレの充実/トイレが綺麗であって欲しい
公園中央付近のトイレを新しくして欲しい
駐車場が少ない、綺麗なトイレがあればありがたいです。
屋根のある場所が欲しい
雨でも凌げる場所があると嬉しい
豊科南部公園にもよく行くが、日陰がほしい。
遊具周りのベンチですが、日除けがあると夏とても助かります。
遊具と木陰や火除けある広場というのも良いと思いました。ただ広い最初に使い方を明確にしてから、形を決めるようにしてほしい。明科駅のようにデザイン先行で使い方が不明な形はやめてほしい。
自動販売機があったら助かる
カフェ
バスケットゴール
来てみたらとっても素敵な公園でしたが、正直知らない場所でした。認知度が上がればいいのか、と思いますので、看板やイベント告知がもっとあるといいかと思いました。

桜祭りやってるのに来られてる人が少ない もっとアピールが必要では
花見シーズン 穴場ではあるけど、認知度が低いのもっと宣伝して集客すれば良いと思う
駅に降りた人がここに来たいと思える風景や、体験があるといい。
選定、草むしり、落ち葉の掃除など頻度が上がれば見栄えがするのかなと
水辺が、ぬめりで転倒しやすいので改善してほしい
わかりやすい看板が近くにあると良いのではないかと思います。
子どもから老人まで楽しめる仕掛けと工夫が必要
平日と土日祝祭日の作り分け、平日はビジネス向け
大雨時、カヌー管理棟入り口からの雨水流入を防いで欲しい
子供の遊べる遊具がもっとあると楽しいと思います。
遊歩道?の垣根がクモの巣が多く、もっと垣根をスッキリさせれば印象が明るくて良いと思います。
夏場子どもが水遊びできるような場所があると嬉しいです。
駐車場からイベント会場までの道が雨上がりでズルッと滑りそう
桜の本数を増やす
いいところだと思いました
長く続けて欲しい
素晴らしい。いい感じでした!
きれいに管理されていていいと思います
イベントで伺いましたがこんなに良い施設があって感動しました。

2-1 公園利用者へのアンケートの調査（7月協議会 提示資料）

12) そのほか拠点に期待することはありますか。（任意）

3歳未満の子が、同じくらいの年齢の子と安全に遊べる場所が欲しい
安全で小学生達が集まったり出来る場所。室内ならなおよし
ゆっくりできる
夏場の散水（子供達が水着で遊べる所）
キャンプができるようにしてほしい
地域の人の交流の場所、若者が集う場所になってほしい。
ランドマークとしてのアピールを今までのような画一的なものにしないことを望みます
健康増進につながるような施策に絡めてほしい
トイレや軽食買い物
水場の綺麗な場所
イベントは大勢くるけど、日頃散歩している人が休憩したり子供が遊べたりすると良い。遊具は人がくる。
歩行困難の方のための電気ミニ自動車の移動できる 屋根付けの休憩所をところどころに配置
子どもの水遊び 滝など作り
川がたくさんあるので安全性も重視して欲しい。柵の隙間をうめるなど。グラウンドの方川沿い柵欲しい
平日は駅からのアクセスのインフラ整備とコワーキングスペース
全天候型BBQ、セグウェイ、屋外サウナなど
市内の小中学校を無料でアウトドアスポーツを体験できる施設
明料の活性化が計れるなら良いと思います。今のままでも充分素敵な公園だと思うので、良いところは残してもらって欲しいです
長峰山や虎線敷 押野山など
さくらがとても綺麗なので、整備をしても桜の木の伐採がなるべく少ないと良いと思います
地元の大事な公園です。地元住民の意見を幅広く聞いてほしいと思います。
インスタ映えするスポットになれば誰もが集う場所になると思います。
気軽に立ち寄りたくなる賑やかな公園になると嬉しいです
最低限の手を加える事で、自然と共存出来る場所を期待します。手を加え過ぎないで欲しいです。
人が集まるのは良いが、市の財政が潤うこと、街が汚れないことが理想です。
可能性は無限大
あづみんがもっと使用しやすいと移動がもっとしやすく色々利用しやすいです。（穂高→明科への移動がスムーズ、など）
地元の人以外が来ようと思える場所
設備をたくさんにすると、整備が追いつかずどれも中途半端にボロボロになることもあるかと思うので、あまり特殊な物や種類を増やさない方が良くないと思います。
水郷に相応しい環境

2-2 千曲川河川事務所 費用対効果調査時のアンケート調査

千曲川河川事務所がかわまちづくりに関する水辺整備事業に対する市民の支払い意志額を推計するために実施したアンケート調査結果からの抜粋

■実施時期 2024年8月に実施
 ■回収状況 事業個所から10km圏の居住者1800人より931件の回答を回収
 これらのうち負担金を払う支払う意思のあった回答581件のうち、その支払い理由を選択肢で回答

■結果概要
イベント開催による賑わいの創出、安全な水辺の実感は半数以上の回答、地域への誇りの醸成が4割で、これらが上位3つを占めていた。

負担金支払い理由の単純集計結果（複数回答）

【安曇野市水辺整備事業】

	今回 (R6) 郵送	事前調査 (R6) WEB
1.安全・安心して水辺に近づくことができ、水辺が身近に感じられるから	314 54.0%	38 50.7%
2.環境教育や水辺の安全を学ぶ防災教育等を通じて、子どもたちが明科地域を好きになり、誇りに思ってくれるようになるから	244 42.0%	22 29.3%
3.カヌーの選手、子ども、ファンが集い、新たな人流が生まれるから	205 35.3%	22 29.3%
4.今後地域で活躍できる次世代の人材が育成されるから	157 27.0%	15 20.0%
5.多様なイベント開催により、にぎわいが生まれるから	364 62.7%	45 60.0%
6.農業などに水利用ができるようになるから	74 12.7%	10 13.3%
7.自分や家族にとって価値はないが、他の世帯も支払うのであれば仕方ないから	60 10.3%	18 24.0%
8.その他	47 8.1%	3 4.0%
無回答	25 4.3%	-
回答者数 (n)	581	75

2-3 安曇野市 第2次緑の基本計画策定のためのアンケート調査

安曇野市の都市公園や生活に身近な緑地の整備、保全等の基本的な方針を定める緑の基本計画策定（第2次計画期間：令和9年～18年）に向けかけて実施されたアンケート調査。

■実施時期：令和7年12月～令和8年1月
 ■回収状況：配布数 2500通 回収数 974通

龍門淵公園・あやめ公園の利用の実態に関する設問や市民が今後の公園整備に求めるものを抜粋して整理。

■結果概要
 ・市民の6割強がほとんど行かないあるいは行ったことがないと回答
 ・今後市民が求める公園は、子供の遊び場、四季の景色、やすらぎの場、休憩・散策、災害時の避難・復旧が上位5つ。
 市内5地域いずれにおいてもこれらが上位5つを占める。

問18 近隣市町村も含めた区域に位置する、自動車等で行く公園への来訪頻度をお聞きます。下表に示す公園それぞれについて、利用する頻度として最も近いものいずれか1つに○をしてください。

龍門淵公園・あやめ公園の利用頻度	アンケート調査結果						
	回答数	構成比	地域別回答比率				
			豊科	穂高	三郷	堀金	明科
月1回以上	11	1.2%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	12.3%
年に3～4回	26	2.7%	1.1%	1.5%	1.1%	1.2%	18.5%
年に1～2回	59	6.2%	6.4%	6.4%	1.1%	0.0%	22.2%
数年に1回	120	12.6%	13.6%	11.3%	14.8%	13.3%	9.9%
ほとんど行かない	287	30.0%	35.6%	27.3%	29.0%	36.1%	22.2%
行ったことがない	333	34.8%	32.6%	39.8%	40.9%	36.1%	3.7%
無回答・無効	120	12.6%	10.6%	13.7%	12.5%	13.3%	11.1%
合計	956	100.0%	264	344	176	83	81

■市内からの利用者数の推計
 利用頻度を月1回以上=20回/年 年に3～4回=3.5回/年、年に1～2回=1.5回/年、数年に1回=0.2回/年として、市内5地域の人口を乗じて算出すると、**41,368人**と推計された。過去の長野県観光利用統計（H26まで公表資料あり）**H25：4.66万人、H26：5.68万人の記録**があることから、**年間4万人程度**は訪れている傾向が推測される。

問20	公園は市民に様々な楽しみや活動等の場を提供できる施設です。今後の再整備や改善にあたり、どのような場を提供することに力を入れるべきとお考えですか。次のうち、あてはまる番号を最大3つまで○をしてください。 ※3つまで選択	回答数	
		回答数	回答率(%)
1	子どもたちが楽しく遊べる場	477	49.9
4	四季折々の景色を楽しめる場	397	41.5
6	やすらぎやくつろぎ、リフレッシュの場	346	36.2
5	水辺や森の近くで休憩、散策できる場	285	29.8
10	災害時の避難や復旧の場	238	24.9
8	健康増進や地域スポーツ推進の場	173	18.1
7	カフェや売店などの飲食提供の場	165	17.3
12	自然とのふれあい・環境学習の場	124	13.0
3	様々な人との交流の場	102	10.7
2	子育て世代の交流の場	95	9.9
11	地域の環境改善の場(温暖化防止のための緑化等)	78	8.2
9	観光拠点の周遊性を高め、賑わいを生み出す場	58	6.1
13	その他	31	3.2
	無回答・無効	86	9.0
	合計	956	

4. センターハウスの整備運営の方向性の整理

事業の目指すところ

アウトドア拠点のコンセプト

人、自然、歴史が“巡る”
水郷のにぎわい合流拠点

- 基本方針 1 「にぎわいが巡る」かわまちづくり
- 基本方針 2 「自然が巡る」体験づくり
- 基本方針 3 「歴史・文化が巡る」人づくり

具体化

宿泊機能の確保の在り方が整備を左右する課題
公民連携の手法と一体的な検討が必要

アウトドアだけではなく
まちに還元できる、
まちにつながる

次世代につなげていく、
子どもたちに明科を
好きになってもらいたい

来た人が楽しめるガイド
やインストラクターが
いる、魅力がある

市民自身も動きを知り、
明科を誇りに思ってもら
えるように

外から来る人も「ファン」
になってもらい、環境を
大切にしてもらい、一緒
に盛り上げていきたい

川から里山、空までまち全体をつなぎ、誰もが楽しめる拠点
子供や地域内外プレイヤーを巻き込んだ、人材の発掘・育成・連携の拠点

公民連携・市場性に関するサウンディング調査
宿泊の採算は厳しい立地条件だが民間の事業参入意向はある。
施設整備への自己投資の意向は弱く、施設整備・運営でのノウハウを活かすことへの提案が主。

事業の目的を踏まえた方向性の整理

論点	市民意識・合意形成	市の方針（素案）
■利用ターゲット 市域外から人が来ること と、市民の利用とどちら を重視するのか。	市民の普段使い+休日の 来訪者等による賑わいを 求める声が主。	○過疎対策としての事業趣旨を考慮 すると、市民+域外からの来訪者 の両面。
■飲食・宿泊機能の要否 今回の事業趣旨、公園の 特性を考慮したときに、 園内に「飲食」「宿泊」 機能の付加が必要か？	宿泊よりもカフェ等を含 む「交流空間」、「共有 空間」がより重要。 宿泊の重要度の認識は低 い傾向。	○交流可能な飲食空間の確保は必須。 ○民間投資の機運も低い中、行政に よる宿泊機能確保は必要。 明科地域との交流が育まれる体 験が提供される合宿・研修、旅を 目的に訪れる人を対象に関係人口 を生み出す。
■飲食・宿泊の提供規模 立地や環境条件から収益 の確実性に課題があるこ とを念頭において、行政 で確保可能な規模はどの 程度か。	交流のためのカフェ的空 間は基本構想にも位置付 け済み。 宿泊可能な施設への転換 に対する認識・理解は深 まっているとは言い難い。	○飲食＝地域交流効果促進を重視 ○宿泊＝以下の2つを候補 候補① 施設そのものの収益性の基 盤確保を重視 候補② 一帯にない機能を創出し、 地域主体の活性化の側方支 援を重視

公民連携の方針

行政による投資での施設整備を基本とし、自
主事業を含む指定管理者方式で運営部分に一
定程度の公費を投入し、安定化を図りつつ、
民間の柔軟な対応のノウハウを活かす。

整備工事前段階から指定管理候補者が参画し、
運営方針を施設整備にフィードバックできる
手法を採用。
【候補】
センターハウスをDBO方式で整備
指定管理候補者先行選定+通常整備

滞在空間に特色付をけを図るため、建築内の
什器の整備や、広場等を活用した収益施設に
ついて民間による整備一部分担も検討の余地
を残す。

区分	行政	民間
①体験	整備	運営
②飲食	ベース整備	一部整備・運営
③宿泊	ベース整備	一部整備・運営

方向性に対する手法の適応性

公による整備運営	民間による整備運営
公益重視のサービスを生み出す役割も付加できる。（指定管理費投入により）	採算性を重視したサービスが基本になるため、より大きな支払い額を見込める利用者層がより重要。
あとから追加、拡充整備、途中での切り替え等への柔軟性が欠ける。	ニーズの変化等に柔軟に対応でき得る。 ノウハウを活かした空間の使い方への期待がある。
地域活性化に向けた必要な投資として公費を投入する役割。	必ずしも採算の見込める分野ではないため積極的な関与が難しい。
民間投資の機運が低い場合に役割が求められる。	指定管理費を活かした形での運営を望む。

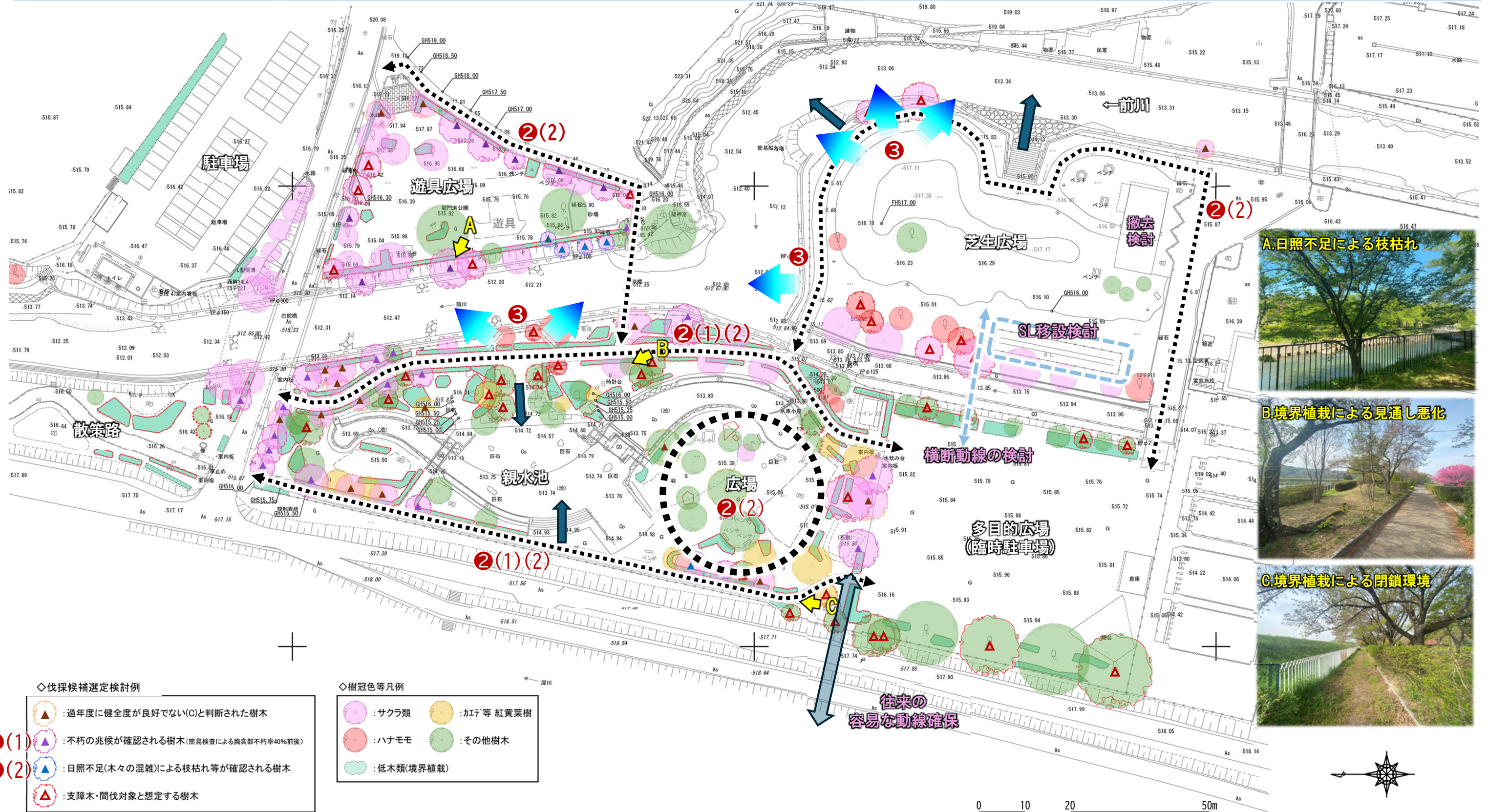
具体化にあたっての論点整理とその対応

整備するセンターハウスの規模及び宿泊の機能の配置で以下の2つを候補として施設配置を検討

- 候補① 運営・体験交流、飲食提供の機能（680㎡程度）+ 合宿利用 40人収容 320㎡程度 2F建て
- 候補② 運営・体験交流、飲食提供の機能（680㎡程度）1F建て / 宿泊は分離・段階整備（トレーハウス・キャンプ等）

5. 園路・広場整備に関する課題 (【課題②補足】 前回協議会提示資料を再掲)

検討課題	具体的な内容	課題解決の方向性
①樹木の良好な生育環境の確保 (経年による樹木の肥大化、衰退)	(1) サクラ類を中心に不朽の兆候が確認される樹木が散在(美観の低下)。 (2) 樹木の肥大化や混雑により互いの緑陰が干渉し、日照不足を要因とした枝枯れが発生。	・ 既存木の取捨選択による明るく開放的な空間形成、樹木にとって良好な環境整備を推進。 ・ 本来見えるべき園外の北アルプスへの見通しもある程度改善の見込み。
②面的な利用促進(≠散策路) (閉鎖的で連続性の薄い歩行空間)	(1) 園路際の境界植栽(低木)が面的な利用を制限し閉鎖的な印象を強める。 (2) 敷地の外周を周る単純な園路線形により各施設間の連続性が小さく、公園の内側(親水池近くの広場)では有効に利用しきれていない場が存在。	・ 境界植栽の削減とともに、公園の内側への誘導や施設間の繋がりを意識した園路整備により面的な利用を促進。
③川とのつながり強化 (川は川、公園は公園の利用状況)	(1) 公園内を前川が縦断する特異空間にありながら水を眺める場が少ない。	・ 前川沿いの溜まり空間を設けることで水を身近に感じる環境を整備。



- ◇伐採候補選定検討例
- ①(1) : 過年度に健全度が良好でない(C)と判断された樹木
 - ①(2) : 不朽の兆候が確認される樹木(簡易検査による胸高部不朽率40%前後)
 - : 日照不足(木々の混雑)による枝枯れ等が確認される樹木
 - : 支障木・間伐対象と想定する樹木
- ◇樹冠色等凡例
- : サクラ類
 - : カエデ等 紅黄葉樹
 - : ハナモモ
 - : その他樹木
 - : 低木類(境界植栽)

0 10 20 50m

